

運転が怖くなってきた今日この頃

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

著名なレーシングドライバーより、都会では若者の自動車離れが止まらないと聞いた。理由として地下鉄を中心とした交通網の発展や、タクシーが身近になったことが挙げられた。

確かに小生が車に夢中だった昭和時代の「車で格好つける」は、間違いなく前時代的なスタイルであろう。そして正しい進歩であるスピード違反や路上駐車を取り締まり強化や、レンタリングやシェアリングの普及も、若者の車離れの主因であろう。

さらに各メーカーともGTカーの売り上げに苦戦していると聞く。購入するにしても、最近の若者はスポーツカーよりも利便性の高いワゴン車を選択するようだ。

「ツリーター車で彼女と海にドライブ」など、何が楽しいのかと言われてしまいそうだ。

それらの現状に対して自動車メーカーは、中高年男性にターゲットを絞り、スポーツカーの販売を積極的に仕掛けていく。そのなか、技術の日産・スカイラインGT-R復活に続き、世界のトヨタが20年ぶりに名車・スープラの販売予約を開始した。

これらの戦略は、まさに直球勝負で還暦世代のハートを揺さぶる。実際に小生も、スープラのカタログに見惚れながら購入を検討していた。と、その時に、童心に返り戯れる中高年を震撼させ、スポーツカーどころか、運転する事自体を躊躇させるような悲惨な交通事故報道が始まった。

87歳男性が引き起こした東京・池袋

の親子死亡事故を発端に、度重なる高齢者の自動車運転が問題視されている。そこで、わざと事故を起こすお年寄りもいないであろうが、事実、75歳以上の運転者による死亡事故は増えている。その件数自体は横ばいで推移しているものの、死亡事故数全体が減少する中、高齢者構成比は上昇の一途である。よって高齢者に運転をさせるな、免許を取り上げるといった過激な論調が叫ばれ、運転免許の自主的返納が美談として取り上げられている。

自身の年齢は免許センターでの75歳の認知機能検査まで、まだ14年もあるが、頻繁に運転をしていた若い頃に比べれば、やはり確実に反射神経は鈍っている（元々うまくなかったが）。

とはいえ、青春時代に戻って、猛烈にスポーツカーを転がしたいわけだ。しかしながら冷静に考えれば、危険な条件下、「いい年をして格好をつける」のも勇気がいる。

改元に合わせて、紙幣の顔が変更する旨が発表された。そこで母校の学祖・北里柴三郎先生が千円札に選ばれたのが誇らしいところだが（一万円札の方が良かったが）、紙幣の人物には現存する人間は選ばれないという暗黙のルールも知った。

理由は単純で、いかなる偉人であったとしても、生きていく限りは、最後まで何を起こすか予測がつかないということだ。

そこで前述の池袋での事件加害者が通産官僚の元トップで、誰からも尊敬

される叙勲者であったことが、その原則とだぶる。気の毒なのは普通に歩いていた被害者親子と遺族に他ならないが、加害者が上級国民であったゆえ、逮捕されなかった、報道が収束されたと憶測され、不公平な扱いではないかとネットが炎上している。

この元院長（院長である自分としては意味深な呼称だが）の華麗な職歴を勘案すれば、キャリア役人と天代に自分でハドルを握ることなど無かったものとは断言出来る。そもそも運転が好きで、老後の趣味であったのかも、それはないが、それにしては人間の一生は本当に最期まで分からない。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院） <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院） <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

